

祝 社殿改修工事 竣工

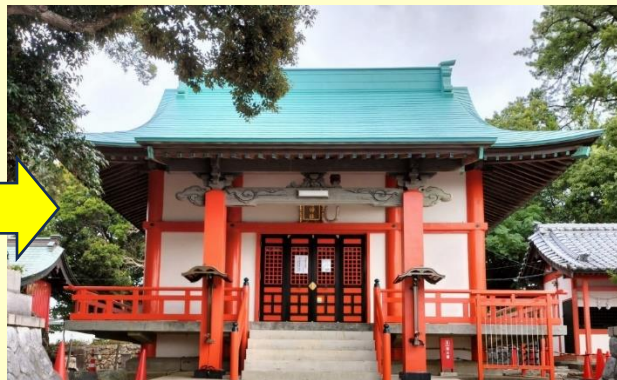
たかくまだより
特集記事

2024年元旦の能登半島地震を契機に始まった、社殿の屋根の耐震改修工事が、今秋完成しました。

どこがどう変わったのか、ビフォーアフターをご紹介します。

はいでん 拝殿の屋根

拝殿は鉄筋コンクリート製で耐震性に問題はありませんでしたが、大屋根の重量が20トン（業者推定）におよんでいました。今回、これらを全て金属で葺き替えました。巨大な鬼瓦や飾り瓦は熊野古道に据えしました。



らんかん 欄干

これまで鉄パイプ製の錆びた手すりが、擬宝珠の付いた立派な欄干に生まれ変わりました。



画像は令和4年のご鎮座950年祭のトークイベントの様様。



あまおお 雨覆い殿の屋根

今回の改修で最も外観が変わったのが、内部にご本殿を抱く雨覆い殿。屋根を90度回転させて妻入りに改築、千木と鯉木を乗せ、社全体を朱塗り（しゆ）にしました。一方で、屋根の縁の破風板は、改修前の部材をそのまま残しています。



社殿内

幣殿の大床を増設しました。



いざ地震、というときの社殿の倒壊防止や人命の安全確保をめざす「令和の改修事業」は、いよいよ本紙表面のとおり「竣工奉祝祭」を迎えるはじとなりました。多くの方からのご寄付に深く感謝申し上げます。

なお、本事業へのご奉賛はまた受け付けております。どうぞ本事業の趣旨に御賛同いただき、ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

